

平成29年度 第1回 南九州市庁舎建設等市民検討委員会

議事要旨

日時 平成29年8月1日（火）18:00～20:00

場所 南九州市役所知覧庁舎委員会室

I 出席者

委員					
小村孝雄	○	内園三昭	○	大園秀己	○
大迫茂子	○	朝隈勝	○	有村留良	欠
森田隆志	○	蔵元泰正	○	池田清志	○
西迫忠憲	欠	福田友和	○	東耕太	○
東俊昭	○	川口正一	○	榊恒久	○
山本敬生	○				
事務局					
総務課長 金田憲明		総務課 総務人事係長 有水志郎		総務課 総務人事係 山崎智秀	

II 配布資料

- 1 検討会委員名簿
- 2 南九州市庁舎建設等市民検討委員会設置要綱
- 3 これまでの経緯及び今後のスケジュール
- 4 新庁舎建設位置に関する数値
- 5 職員数の推移
- 6 地理的中心及び人口分布
- 7 南九州市庁舎の未来像
- 8 平成24年度庁舎の在り方検討委員会 提言書 ※事前配布

III 会議内容

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員・職員紹介
- 5 委員長及び副委員長の選任

(事務局)

南九州市庁舎建設等検討委員会設置要綱第4条に基づき各委員の互選により定める必要がある旨説明。

⇒協議の結果、委員長には蔵元泰正委員、副委員長には小村孝雄委員が選任されました。

## 6 諮問

## 7 協議

### (1) これまでの経緯・現状の説明（事務局）

- ① （事務局）概要説明 配布資料3～6
- ② （以下、意見・質疑）

（委員）在り方検討会以降、基金の積立て状況については気にしていた。完成が40年度まで積立ができるということで良いか。在り方検討会でも、将来の子どもたちへの負担を減らそうということで、積立てに至った経緯がある。

（事務局）財政が厳しい中、市民の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるが、今後も毎年1億円ずつ積立てられるように努力していきたい。

（委員）次の4点について確認したい。

- ・ 1億円ずつ積立てていって現在4億円である。工事に入る時期が36年度とすると7年しかない。単純計算では11億円手元にある。建設費用が40億円であることを考えると、平成40年度完成にこだわらずに、財政規模・市民の生活に支障のないかたちで進めても良いのではないか。
- ・ 新しく土地を求めるのには、お金がかかるのではないか。
- ・ 敷地面積が25,000㎡としているが、どの地域でも同じくらいの基準と考えて良いのか。
- ・ 地理的中心、人口分布を資料としているのが分からない。単純に考えたら便利に見えるが、歴史的に形成された市街地があることから、単に中心地を示して位置を考えることが合理的に見えない。現在の庁舎を活用できないか。5億近くかけた耐震工事をした庁舎をなるべくもたせて、市民が納得した後に庁舎建設に取り掛かるなど焦らない方が良いと思う。

（事務局）

- ・ 耐震工事は、震度5又は6の地震に対して、フレームが壊れない、建物内の人間が死亡しないといったものである。補助金等の資料では、建物の耐用年数は50年、鉄筋コンクリートの耐用年数は70年と色々な数値があるが、南九州市の庁舎はS38からS44の頃に建設されているので、あと10年もすれば建物の耐久年数時期を迎えることから平成40年度完成としたところである。
- ・ 費用がかかる土地の取得は避けたいと考えている、そのような方向で本委員会でも方策を探っていただければ有難い。市有地での対応も併せて協議いただければと思う。

- ・建物の規模，職員の数，会合の開催も考えて，25,000㎡を目安とした。
  - ・地理的中心，人口重心は参考資料として示させていただいた。これらにこだわらずに，ほかの位置を候補地としてご提案いただいても構わない。
- (委員) 在り方検討会では，すぐ建設してはどうかという意見があった。すぐには無理ということで15年～20年後に建設するという事でまとまった。
- (委員) 個人的に設計関係に携わっているが，1人当たり23㎡確保しており，約25㎡が標準なので妥当かと思う。ただし，駐車場に関しては，20,000㎡も必要かと思う。2階にすれば半分の敷地で済む。そうすれば，15,000㎡という考えもある。市としては，どの程度の規模・金額を考えているのか。
- (事務局) 在り方検討委員会での提言では40億円ということだったので，その額を目安としている。半分の20億円を貯めるため，毎年2億円以上は積立たいという考えがあったようであるが，2億円は困難だったため，毎年1億円を積立している。
- (委員) 在り方検討委員会では40億円ということで，果たしてそれだけ必要なのかということも話し合った。あと残りの16億円を貯められるのか，また，残り半分の20億円というのはどういう形でできるのか不安になる。そのようなことも検討しながらではないと難しいのではないかと。個人的には，耐震工事を実施したとしても今の基準には合致していないため，新庁舎建設は必要だと考えるが，建設費用の面で心配している。
- (事務局) どれだけ節約できるか，複合施設や他の機関と一緒にやっていく方法も考えられる。できるだけ安いかたちで丈夫なものを建設して，後世に負担を残さないようにしていかなければならない。
- (委員) 市の所有地があるのか，40億円のうち補助金はないか，借金のあて先はどこを考えているか？
- (事務局) 市の所有地は事務局の方で提示し，現地視察ができればと考えている。また，委員の方からご提案の土地があれば，面積，土地の価格を調べたい。
- (委員) 次回，事務局から土地の提示があるのであれば，交通網の要所を記載したものを併記していただきたい。
- (議長) 一旦整理したい。辞令は平成30年3月31日までとなっていたが，スケジュール（配布資料3）では，平成29年度から平成30年度にかけて建設候補地を絞り込むこととしている。本委員会の開催スケジュールと併せて事務局に説明を求めたい。
- (事務局) 平成29年度は全5回を予定している。平成29年度に提言をいただいたら，平成30年度に市民の皆様から意見を聴取したい。場合によっては，

平成30年度も引続き検討を深めていただくことになるかもしれない。

- (委員) さきほど市長から、建設位置と建設位置に係る事項について諮問を受けたので、その点において協議していけば良いかと思う。新庁舎全てについて協議するととも5回程度では終わらない。
- (事務局) ご意見のとおり、場所とそれに付随する課題について協議していただきたいと考えている。場所が決まれば、建物の詳細な規模等は詰めていかなければならないと考えている。
- (委員) 建設位置が決まると、市当局のスケジュール通りになってしまう。建設位置・建設規模は市民全体に関わる大きな問題なのでもっと考えないといけない。後世に負担を残さないという視点が抜けてしまうのではないか。5回程度ではなくて、もっと市民間で論議を巻き起こした方が良い。毎回、市民に委員会の結果を公開した方が良い。
- (委員) 建物の規模等は、次にこのような委員会等ができるのではないか。今回は、位置を決めるということではないのか。
- (事務局) 規模、内容等は新たに委員会で検討していただくような機会を設けたいと考えている。
- (議長) 先ほど、市所有の土地と交通網の要所を記載した地図の資料要求があったが、ほかに資料の要求はないか。
- (委員) 3階建ての計画だが、5階建てとか高くすることでどれだけの費用がかかるか試算を求めたい。同じ庁舎位置に建てるのが市民生活に大きな影響がないと思う。他の市で耐用年数を迎えた庁舎をどのように建替えをしているか。
- (事務局) 関係課と連携して、資料を提供したい。
- (委員) いずれ南薩地域全域の広域合併があるかもしれない。それを踏まえた資料を求めたい。
- (委員) 指宿市、枕崎市を含めた検討が良いのではないか。
- (委員) 今回、諮問された私たち委員がひとつの提言書を作るに当たり、庁舎位置という非常に重たいことを提言しなければならない。行政がその提言に基づいて、進めていくのかということも含めて協議していかなければならない。
- (委員) 先ほど、質問したところであるが、残りの20億円についてどのような考えがあるか。
- (事務局) 庁舎建設には有利な地方債である合併特例債は本市においては該当しない。全て自己財源で賄う必要がある。現段階では一般単独事業債が考えられる。実際の位置・建設規模が決まれば、工夫して考えたい。防災センター等との複合施設も考えられるのではないかと思う。

- (委員) 結論としては、特例債はない、複合施設の構想がある程度ということが良いか。
- (事務局) ご意見のとおり。位置・規模も決まれば、ほかの機関との協議も考えていきたい。
- (委員) 東京都のある区がマンションとの複合施設で区の負担がなかったという例もあった。
- (議長) 第1回目であったが、非常に濃密な会議であった。将来、この委員会が南九州市の新庁舎を左右すると思うので、慎重審議が必要だと思う。事務局は、要求のあった資料を準備していただきたい。
- (委員) この委員会の内容は色々な人たちと話しても良いか。
- (事務局) 話していただきたい。
- (議長) 会議の内容は市報に掲載するか。
- (事務局) 提言の内容は市報に掲載する。会議の状況等は、ホームページに掲載したい。方向性が見えたときには、広報紙に掲載したいと考えている。
- (委員) さきほどあったが、利便性の考慮のため、幹線道路等の交通アクセスを示すことが必要。
- (事務局) 国県道、主要な市道を載せたものを示したい。
- (委員) スクールバスは学校まで1時間以上かかる人もいる。スクールバス、ひまわりバスに市民誰もが乗れるような仕組みにすれば交通弱者には良い。
- (委員) 市役所に用事がある人のアクセス方法についてアンケート調査して、交通弱者の実態調査をした方が良いのではないか。
- (委員) 交通アクセス等の細かい話になると、どこかに無理が出てくる。現在の幹線道路等の形態において、庁舎位置を考慮するための資料として要求したい。
- (議長) アンケートも含めて、ひまわりバスの件は、専門の会議で検討していただきたい。この委員会は公開なので、団体の代表である委員が市民の皆さんの意見も聞いてきていただきたいと思う。

本日の協議は以上で終了する。

- (2) 講義 鹿児島県立短期大学商経学科 山本敬生 准教授 (省略) 配布資料7

## 8 今後の進め方

次回開催は、平成29年9月15日(金) 18:00~とする。